

# でんち

社団法人 **電池工業会**

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011

東京都港区芝公園三丁目5番8号

機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>

発行人 杉野一夫

平成18年2月1日

## 新年賀詞交歓会を開催

1月13日 東京プリンスホテル パークタワーにおいて、新年賀詞交歓会を開催した。また、平成17年度優良従業員表彰式も併せて行った。

### 新年賀詞交歓会

石田 徹会長の挨拶に続き、来賓代表で経済産業省商務情報政策局情報通信機器課 横尾 英博課長より挨拶をいただいた。引き続き、平成17年電池工業会の活動状況のビデオを放映後、大坪 愛雄副会長の音頭で乾杯、歓談に入った。関連企業、団体など関係者265名の来会を得て、終始和やかな雰囲気であった。

### 優良従業員表彰

新年賀詞交歓会に先立ち、平成17年度優良従業員の表彰式を行い、石田 徹会長より、各受賞者に賞状と記念品が授与された。

受賞されたのは、次の10社15名の方々です。

#### 受賞者 (順不同、敬称略)

小林 昭二 (株)エスアイアイ・マイクロパーツ)

中村 靖 (FDKエネルギー(株))

木口 勝士、古栗 光二 (三洋電機(株) モバイルエネルギーカンパニー)

近重 泰司、春口 淳志 (株)ジーエス・ユアサ コーポレーション)

齊藤 光吉 (新神戸電機(株))

後藤 清、菊地 久典 (ソニーエネルギー・デバイス(株))

内藤 良明、小須田 和年 (東芝電池(株))

渡辺 修 (日立マクセル(株))

石川 雄二 (古河電池(株))

小村 祐司、稲石 一弘 (松下電池工業(株))



石田 徹会長



横尾 英博氏



# 平成17年度第4回一次電池部会開催

平成17年12月16日機械振興会館において後藤部会長を議長に、平成17年度第4回一次電池部会を開催した。部会長、杉野専務理事の挨拶に続き、各委員会からそれぞれ活動報告があった。

## 1. 後藤部会長挨拶

一次電池販売統計データからは、徐々にフォローの風が吹いてきたような感じがします。2006年こそは、真の良い風が吹いてくれることを願って、お互いに頑張っていきましょう。

## 2. 杉野専務理事挨拶

一次電池、小形二次電池のライフエンドまでの長所、短所の論議を避けては通れない。工業会としての最終着地キーワードは「共存」である。今後は皆様と模索していきたい。

## 3. 事務局報告

一次電池は8月から11月までの4ヶ月連続で数量、金額ともに前年比を上回った。

特に、アルカリ乾電池の数量増は大きいですが、これは輸入が減少しているためと思われる。しかし、金額はマイナスとなった。

## 4. 委員会報告

### (1) 環境対応委員会 (佐藤委員長)

- ・EU第2読会で、鉛40ppm以上の使用禁止、カドミ20ppm以上含む電池の医療器、電動工具への使用禁止、回収目標の6年後40%、10年後60%などのブロックランド案は否決され、ほぼ2004年12月の理事会案通りに決定した。
- ・乾電池のLCAについて、LCA学会で発表があり、鉱石から材料を作る場合と比較して、乾電池を回収するための輸送やその焼却により発生する炭酸ガスの量は約2倍となる。



### (2) 技術委員会 (筒井委員長)

- ・2005年度は、JIS C8514（水溶液系一次電池の安全性）の改正を行った。
- ・また、「リチウム一次電池の梱包と廃棄マニュアル」の改正原案を完成した。

### (3) 広報総合委員会 (佐藤委員長)

「2005 プロ野球最優秀バッテリー賞」「でんちフェスタ」「電池の日テレビパブリシティ」を報告した。

### (4) PL委員会 (廣田副委員長)

2004年度の重要事故と事故件数についての報告があった。事故件数は348件あったが、2001年の611件をピークに年々減少している。事故の80%が漏液で、その原因の47%が過放電であった。

# 第37回小形二次電池部会を開催

平成17年12月14日、中谷部会長（三洋電機（株））を議長に、小形二次電池部会を開催した。

冒頭に、部会長と専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会より活動報告が行われた。

## 1. 中谷部会長挨拶

電池を取り巻く環境は、EU電池指令の影響など厳しくなることが予想される。これに対応できるよう頑張っていきたい。

## 2. 杉野専務理事挨拶

一次電池、小形二次電池の、ライフエンドまでの長所、短所の論議を避けては通れない。工業会としての最終着地キーワードは「共存」である。今後は皆様と模索していきたい。

## 3. 委員会等の報告

### (1) 技術委員会（野上委員長）

- ・「Ni-MH急速充電時間表示ガイドライン」に関連して、急速充電の実力値を確認したが、表示内容を満足していないものもあった。技術委員会で急速充電の考え方を整理することになった。
- ・ANSI会議において、市販用ニッケル水素電池のRated capacityは日本が提案する「最低容量」に決定した。
- ・リチウムイオン二次電池の再資源化に関連し、新規電池の開発には、再資源化のデザインレビューすることが要望された。
- ・国際電気化学会で、韓国がリチウムポリマーに積極的であることが注目された。
- ・カメラ映像機器工業会より、リチウムイオン電池の模倣品対策に協力依頼があり、承認された。



### (2) 業務委員会（永峰委員長）

2004年第4四半期～2005年第3四半期の販売実績と海外生産分の出荷実績を報告。

- ・ニカド電池：中国での生産が加速しており、出荷数量比も海外91、国内9となっている。国内市場は、防災と電動工具向けだが、リチウムイオン電池へのシフトにより減少。輸出は電動工具向けが順調だが、高容量はニッケル水素、リチウムイオン電池にシフトしている。
- ・ニッケル水素電池：国内、海外生産数量は前年比111%、国内再販はAA（単三形）サイズが好調。防災用も増加。海外では、北米向け電動工具用が好調。  
海外生産へのシフトが進み、生産比率は、国内55%、海外45%となった。
- ・リチウムイオン電池：生産数量は、国内が前年比116%、海外が145%と好調。携帯電話、パソコン用は一部供給が追いつかない状況。9月の出荷実績は、国内メーカーの海外生産分を含め1億セルを突破した。

- ・小形シール鉛：国内需要では、事務用機器用途の減少により、前年比89%となった。海外は105%。

海外生産へのシフトが進み、生産比率は、国内25%、海外75%となった。

### (3) 広報総合委員会 (佐藤委員長)

- ・「2005 プロ野球最優秀バッテリー賞」を12月6日、東京プリンスホテルにて開催した。
- ・「でんちフェスタ」は、11月12日に日本科学未来館で親子参加型イベントとして開催した。  
従来の「手作り乾電池教室」に加え、「エネルギー体験教室」を行った。
- ・「電池の日」に、青森放送、鹿児島テレビなど全国7局で『電池の正しい使い方』の啓発を行った。

### (4) 海外環境委員会 (佐藤委員長)

- ・EU電池指令第2読会の投票結果に関するEPBA (Europe Rechargeable Battery Association) からの速報について報告された。重金属規制や回収率は、理事会案に沿った結果となった。懸念されていた鉛の規制はなくなったが、新たに電池容量の表示や、機器に内蔵されている電池の取り出しを容易にすることが決議された。
- ・これまで欧州中心に行われていた電池リサイクル会議が、欧州以外で初めて中国で開催された。巨大市場である中国の電池リサイクル動向を理解する必要がある。

### (5) PL委員会 (馳委員長)

JEITA (電子情報産業協会) が事務局となり、経済産業省、日本家電情報機器メー

カと電池工業会による、日中産業界の模倣品の現状報告会があり、これまでの経過と、2006年2月に予定されている、第2回日中知的保護会議への取り組み状況について報告があった。

### (6) 国連対応委員会 (森脇委員長)

- ・2005年11月の国連危険物小委員会へのリチウム電池、リチウムイオン電池の危険物除外範囲拡大はPRBA (Portable Rechargeable Battery Association) よりの提案で、次回2006年7月まで延期となった。
- ・リチウムイオン電池のFAA (Federal Aviation Administration) 試験の結果、SOC (State of Charge) 50、100%での燃焼試験で、ハロンガスで消火できることを確認した。
- ・2005年9月に中国昆明で、中国化学物理電源協会と電池工業会がタイアップして会議を行い、日本は、リチウムイオン電池の航空輸送規制や事故事例を紹介し、電池の安全性への取り組みの重要性を訴えた。

### (7) 再資源化委員会 (新井委員長)

リサイクル会社にコバルト系以外のリサイクルの課題をヒアリングした結果、リン、錫を除去するのに時間を要する。また、錫が製品に含まれるともろくなるため、もっとも注意が必要であることがわかった。

### (8) 有限責任中間法人 JBRC (生川専務理事)

第13回JBRC理事会の内容説明と2005年11月の回収量の結果の報告があった。

## 「蓄電池設備整備資格者講習」の修了考査合格者（神奈川県 開催分）

弊電池工業会は、平成17年12月1日～2日に神奈川県において「蓄電池設備整備資格者講習」を開催いたしました。この会場の講習で修了考査に合格した方々は以下の通りです。

おめでとうございます。

尚、合格通知は直接、ご本人に通知いたしました。

この講習会の合格者数と合格率は、80名（88.9%）という結果となりました。

[敬称略]

<神奈川県>

坂下淳二・水野富義・下條和仁・藤原里史・中澤昭二・松田世光・橋本 崇・林 照夫・井上 寛・阿部雅一・池田雅一・横倉利夫・小野寺知哉・浜中広志・近藤幹雄・宮本和正・宮田正一・山田邦彦・大出剛士・井町

宏・藍田靖彦・岩下頼親・内田裕司・舛井寿・清水健司・猪田博一・小川 哲・齋藤祐司・村上結城・白井安治・細田 浩・青木信秋・竹田 準・林 新一・竹内高男・勝俣圭司・野島直人・石井理恵・貫井義浩・鬼塚寿幸・田井中金次・大江勇人・藤田治若・清水康弘・山下文秋・二本柳利治・上野健一・天野秀一・三村明美・峰 幸義・坂本辰雄・井浦国徳・斉藤功一・須藤義貴・長嶋 茂・中山和享・三富正臣・望月泰宏・麻原隆広・佐藤道宏・古賀 勲・照井 仁・長谷川 亮・我妻昭則・矢景雅晴・木村圭吾・松崎弘明・藤本敦司・大澤芳弘・石坂桂一郎・植松典幸・出来徹朗・織田 均・菊田義文・加賀谷徹・大櫻裕一・河野忠克・松戸照明・坂爪啓・太刀川友和

以上

## 米国の電池に関する規制状況

今月は米国の状況についてお話しします。

米国の法律は、日本と異なりコモン・ローという判例法の体系になっています。法律に依存する部分もありますが、過去の判例との継続性を考慮しつつ、新たな判決の流れにあります。しかし、判例だけで運用されるだけでなく、憲法などの制定法も存在します。

米国の法体系は、連邦法と州法があり、連邦法でも全州に適用するもの、州法に運用を委ねるものとわかれます。さらに、EPA（Environmental Protection Agency：環境保護庁）が強制力をもつ法律もあります。

### [EPAの電池に関する規制]

1998年3月以降、次の事項を守ることが義務づけられています。

- ・ ニカド電池およびシール鉛蓄電池について
  1. リサイクルマーク（日本と同じメビウスマーク）もしくは、これに相当するリサイクル記号と電池の種類（ニカド電池では、「nickel-cadmium」または「Ni-Cd」、シール鉛蓄電池では、「Pb」「LEAD」）の表示
  2. 機器内蔵で取り出せない場合には、「リサイクルしなければならないシール鉛電池が入っている」と記載
  3. 機器から取り出しやすい設計にすること

・ 水銀について

1. 水銀を使用したアルカリ乾電池、マンガン乾電池の販売禁止
2. 25mg以上の水銀を含む、ボタン電池の販売禁止
3. ボタン形水銀電池の販売禁止

### [カリフォルニア州法]

2005年9月に「2006年充電式バッテリーリサイクル法」が発効させることが採択されました。

1. 充電式バッテリーとは、自動車用ではない、小型で充電式のニッケル・カドミウム電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池、密閉式鉛蓄電池と、これらの電池パック
2. 充電式バッテリーに、適切なラベル表示をすることとし、消費者向け充電製品の操作マニュアルに、充電式バッテリーの適切なリサイクルと、処分に関する情報を記載することを義務づけている。

### [その他]

ニューヨーク市法でも、カリフォルニア州法と同じように、充電式バッテリーのリサイクルが義務づけされており、電池の重さが24ポンド（10.872kg）以下で、自動車用等以外と定められています。

# 平成18年1月度の電池工業会活動概要

部会	開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議他	13日(金)	優良従業員表彰	東京プリンスホテルにて開催
	13日(金)	賀詞交歓会	東京プリンスホテルにて開催
	18日(水)	JEA蓄電池設備認定委員会幹事会	蓄電池設備資格審査2件、型式認定26件を審議し、合格と判定した。
	29日(日)	緊急会議(鉛4社経営代表者)	自動車用電池新リサイクルシステム・スキームの検討
二次電池部会	6日(金)	自動車鉛分科会	標準化委員会SBA提案制定案、改正案容の修正審議
	12日(木)	JARIFCEVセンター標準化委員会	EV用鉛蓄電池関係JEVS規格の標準化審議
	13日(金)	用語分科会	SBA様式規格の新JIS様式対応原案審議
	13日(金)	二次電池部会	自動車用電池リサイクル、小形シール統計、中古電池輸出の審議
	18日(水)	二次電池部会	自動車用電池リサイクル・スキームの検討
	18日(水)	据置鉛分科会	JEMA規格内容審査、石油学会維持規格内容審査
	18日(水)	需要予測委員会	実績集計
	19日(木)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討
	19日(木)	アドバンスバッテリー技術研究会	EV用電池の研究情報(於大阪科学技術センター開催)参加
	19日(木)	資材委員会	自動車用電池新リサイクルシステム・スキームの検討
	20日(金)	PL委員会・技術サービス分科会 合同会議	平成18年度啓蒙活動計画審議、安全表示ガイドライン改正案の審議
	23日(月)	電気車用電池リサイクル分科会	電気車用電池リサイクルスキームの検討
	23日(月)	石油設備維持規格WG	据置、アルカリ蓄電池規格化の審議
	23日(月)	充電器分科会	据置蓄電池キュービクル(SBAS0903)の改定審議、浮動充電用整流装置の保守・取扱いに関する技術指針(SBAG0901)の改定審議
	24日(火)	産業電池技術サービス分科会	蓄電池設備の交換部品実績調査、蓄電池設備の劣化診断指針(SBAG0606)の見直し
	24日(火)	直需分科会	自動車用電池新リサイクルシステム・スキームの検討
	26日(木)	(財)金属資源機構	ハイブリッド車用蓄電池の希少金属リサイクル技術の開発研究会
	26日(木)	市販分科会	自動車用電池新リサイクルシステム・スキームの検討
	29日(日)	二次電池部会	自動車用電池リサイクル・スキームの検討
	30日(月)	小形鉛分科会	MSDSの審議、標準類の確認
小形二次電池部会	25日(水)	Li二次分科会	来年度計画、JISC8711/C8712本文、解説審議
	25日(水)	ニカド・ニッケル水素分科会	来年度計画、JISC8708/C8713本文、解説審議
	26日(木)	業務委員会	12月度販売状況の検討及び動態確認、海外生産分の確認
	27日(金)	再資源化委員会	Co系以外のLi電池分別再資源化の検討
一次電池部会	10日(火)	IEC/Li-WG	時計用Li二次電池審議他
	10日(火)	JIS/IEC小委員会	JIS C8500/C8514本文、解説審議
	11日(水)	業務委員会	来年度活動内容と計画の検討。来年度販売予測の立案検討
	20日(金)	環境対応委員会	EU電池指令の動向まとめ

## 小型燃料電池の開発を本格化 新燃料供給方式により モバイル機器用燃料電池システムの小型化を実現

松下電池工業株式会社

松下電池工業株式会社（社長：石田 徹）は、モバイル機器用燃料電池システムにおいて、「新燃料供給方式」を開発いたしました。この方式の採用により、燃料電池システムの体積を、従来の業界レベル※1と比較し、約1/2に小型化することが可能となります。

さらに今回、この「新燃料供給方式」に加えて当社のスタック技術、高出力リチウムイオン電池技術、種々の用途で培った電池制御技術を融合させた直接型メタノール燃料電池※2システムを開発しました。

この試作品は、体積400ccと従来の業界レベル比、約1/2の小型サイズながら、平均13W、最大20Wの出力が可能と、「真のモバイル性」を追求しました。そして、燃料200ccあたり約20時間の駆動が可能です。

なお、本方式を採用した直接型メタノール燃料電池の試作品を、2006年1月5日～8日に、米国ラスベガスで開催される「2006 International CES※3」において参考出展※4いたします。

※1 従来の業界レベル：当社では、過去発表された同タイプの10W級燃料電池システムの体積を800～1,000ccと認識しています。

※2 直接型メタノール燃料電池：燃料であるメタノール水溶液を、直接発電部に供給する燃料電池。

※3 CES：Consumer Electronics Show（国際コンシューマ・エレクトロニクス・ショー）。世界最大級のコンシューマ・エレクトロニクスの展示会。

※4 参考出展：本試作品は、開発中の技術試作機であるため商品化等に関しては未定です。



新燃料供給方式を採用したモバイル機器用燃料電池システム（2005年12月 松下電池）

## グローバル統一デザイン\*1を採用、パナソニック電池は「世界スタンダード電池」へ オキシライド乾電池、アルカリ乾電池を発売 従来の約1.2倍長もちに

松下電器産業株式会社

ナショナルウェルネスマーケティング本部は、グローバル統一デザイン\*1を採用し、従来の約1.2倍長もちを実現したオキシライド乾電池単3形、単4形とアルカリ乾電池単3形、単4形を4月10日より発売します。

オキシライド乾電池は、当社が2004年4月に単3形、2005年4月に単4形を発売した、従来のアルカリ電池よりパワフルで長もちする乾電池です。デジタルカメラやモーター使用機器、玩具など特に大きな電流を必要とする機器への使用ニーズが高く、既に国内で約2億個（2005年12月末現在）が販売されています。海外でも、2004年12月末より各地で順次発売し、約1億個を販売しました。今回、当社市販電池の世界戦略に基づき、オキシライド乾電池で採用されたグローバル統一デザイン\*1をアルカリ乾電池にも踏襲しています。これにより、オキシライド乾電池、アルカリ乾電池、また、ニッケル水素電池（充電電池・既発表）とともに、世界統一デザインとなり、「パナソニック電池は世界スタンダード電池へ」を戦略として、世界市場に向け発売していきます。

オキシライド乾電池は、正極に新添加剤と改良を施した新オキシ水酸化ニッケルを採用し、電池の反応性を向上させ、合わせて負極の増量、電解液の最適化により、当社従来品比\*2約1.2倍\*3の長持ちを実現しました。

また、アルカリ乾電池は、当社独自のオキシライド乾電池技術を採用し、電解液量を増量させたこと、および、負極垂鉛粉末の改良による電池反応性向上で当社従来品比\*4約1.2倍\*3の長持ちを実現しました。



(2006年1月 松下電器)

当社はオキシライド乾電池、アルカリ乾電池により、全世界の人々に便利で快適なコードレスライフを提案していきます。

### 特長

1. グローバル統一デザイン\*1を採用  
パナソニック電池は「世界スタンダード電池」へ
2. 従来の約1.2倍長もちを実現

\*1：世界13ヶ国34都市で約2年にわたるマーケットリサーチの結果、選定されたデザインです

\*2：当社オキシライド乾電池：単3形ZR6Y、単4形ZR03Y

\*3：単3形はデジタルカメラ相当モード（1500mW-650mW 2SP30S 10サイクル1時間終止電圧1.05V）において、オキシライド単4形はデジタルオーディオ相当モード（100mA 1hpd 0.9V）において、アルカリ単4形はデジタルカメラ相当モード（900mW-390mW 2SP30S 10サイクル1時間終止電圧1.05V）において

\*4：当社アルカリ乾電池：単3形LR6G、単4形LR03G

# International Auto Aftermarket EXPO

自動車関連の部品・用品・工具・機器からビジネスモデル提案まで  
日本唯一の国際的なオートアフターマーケットの専門トレードショー

## 第5回 国際オートアフターマーケット EXPO 2006

オートアフターマーケットの  
新しい潮流を生み出す業界唯一の国際展！  
いよいよ3月に開催！！

<http://www.iaae-jp.com/>

出展案内資料のダウンロードや、前回までの結果  
報告などもご覧いただくことが可能です。

WEB上にて

**業界関係者向け事前登録受付中！**

(事前登録は3/6(月)まで)

日本初！

■次世代の自動車整備コーナー 関連セミナーも実施

会期中、毎日出品されている故障診断システムの実演が実車で行われます。自動車の整備に携わる方は必見の実演コーナーです。

注目！

■洗車サービス提案コーナー 関連セミナーも実施

顧客との新たな接点を生み出すサービスとして再び注目を集める「洗車」にフォーカスします。資材やシステムの提案が目白押し！

必見！

■オートビジネス提案コーナー

新車・中古車、カー用品の販売システムをはじめ、新しいビジネスモデルの提案が一堂に集結します。業態変革には必見のコーナーです。

日本唯一の国際的なオートアフターマーケットの専門見本市として、国内外の有力企業約300社が出展しています。  
変化の激しいアフターマーケットで、ビジネスチャンスを獲得するために本見本市を是非ご活用下さい。

会期：2006年3月10日(金)～12日(日) 10:00～17:00(最終日は16:00)  
会場：幕張メッセ(日本コンベンションセンター)  
主催：国際オートアフターマーケットEXPO実行委員会  
入場料：1,000円(消費税込み) ※特別招待券持参者・事前登録者は無料

問い合わせ先：  
国際オートアフターマーケットEXPO運営事務局  
〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-16  
(株)ジェムコ・コーオペレーションズ内  
TEL：03-5565-1642  
FAX：03-5565-6909  
E-mail：info@iaae-jp.com

# 11月度電池および器具販売実績（経済産業省機械統計）

（2005年11月）

単位：数量、千個、金額、百万円

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	572,323	64,602	108%	103%	5,508,455	635,787	100%	100%
全電池合計	571,346	63,273	108%	103%	5,499,051	623,262	100%	100%
一次電池計	424,409	14,847	108%	104%	3,976,297	129,571	97%	97%
マンガン乾電池	65,582	1,148	110%	89%	632,739	10,325	83%	76%
アルカリ乾電池計	146,378	7,394	104%	98%	1,156,252	57,636	99%	96%
単 三	80,044	3,267	98%	90%	640,667	27,147	94%	93%
単 四	39,115	1,652	120%	110%	319,327	13,510	117%	109%
その他	27,219	2,475	103%	102%	196,258	16,979	94%	94%
酸化銀電池	77,607	863	94%	95%	875,654	9,497	95%	95%
リチウム電池	103,981	3,669	110%	102%	1,082,694	39,621	99%	93%
その他の乾電池	30,861	1,773	196%	185%	228,958	12,492	163%	162%
二次電池計	146,937	48,426	107%	103%	1,522,754	493,691	105%	101%
鉛電池計	3,654	12,032	101%	94%	35,691	118,714	101%	97%
自動車用	2,498	7,365	102%	99%	22,790	65,236	100%	97%
二輪用	323	653	104%	115%	3,593	7,373	99%	94%
小形制御弁式	563	665	89%	84%	6,556	7,964	98%	97%
その他	270	3,349	114%	83%	2,752	38,141	115%	99%
アルカリ電池計	50,140	9,699	85%	104%	643,381	111,104	98%	109%
完全密閉式	25,701	2,986	81%	85%	350,861	38,495	96%	98%
ニッケル水素	24,431	6,533	91%	117%	292,387	69,989	101%	118%
その他のアルカリ電池	8	180	89%	74%	133	2,620	90%	79%
リチウムイオン電池	93,143	26,695	125%	106%	843,682	263,873	112%	100%
器具計（自主統計）	977	1,329	97%	98%	9,404	12,525	100%	100%
携帯電灯	547	434	81%	79%	5,416	4,509	109%	114%
電池器具	430	895	129%	111%	3,988	8,016	90%	94%

# 11月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2005年11月）

単位：数量、千個、金額、百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	291,386	32,935	112%	117%	3,071,025	316,668	99%	101%
一次電池計	157,148	2,983	117%	117%	1,644,877	29,710	94%	94%
マンガン	42,564	496	148%	184%	420,140	4,736	92%	119%
アルカリ	29,908	583	169%	151%	243,057	4,357	111%	97%
酸化銀	40,585	470	106%	109%	428,304	4,697	105%	102%
リチウム	42,038	1,389	88%	99%	526,557	15,376	84%	87%
空気亜鉛	1,956	29	120%	108%	23,309	368	104%	104%
その他の一次	95	17	42%	77%	3,511	175	41%	44%
二次電池計	134,238	29,952	107%	117%	1,426,147	286,958	106%	102%
鉛蓄電池	570	554	232%	107%	5,955	8,654	236%	138%
ニカド	21,585	2,016	75%	85%	311,105	27,138	100%	107%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	0	2	1%	12%
ニッケル水素	8,380	2,499	69%	111%	167,586	28,633	111%	141%
リチウムイオン	81,576	21,088	127%	119%	744,192	191,240	113%	98%
その他の二次	22,126	3,795	113%	132%	197,310	31,292	88%	92%
全電池合計（輸 入）	73,709	7,188	83%	111%	690,105	72,068	103%	122%
一次電池計	61,018	1,134	77%	74%	584,691	12,250	100%	90%
マンガン	9,592	120	54%	56%	118,702	1,380	91%	87%
アルカリ	41,654	651	81%	78%	364,841	5,625	95%	87%
酸化銀	339	8	119%	112%	2,350	54	80%	88%
リチウム	5,802	179	233%	101%	45,593	2,416	227%	152%
空気亜鉛	923	26	90%	105%	10,619	286	108%	125%
その他の一次	2,710	151	41%	56%	42,586	2,489	110%	69%
二次電池計	12,690	6,054	141%	122%	105,414	59,818	129%	131%
鉛蓄電池	863	2,044	100%	112%	7,772	18,244	110%	112%
ニカド	2,393	449	91%	94%	21,086	4,438	77%	87%
ニッケル鉄	17	13	83%	31%	169	279	110%	99%
その他の二次	9,417	3,547	172%	136%	76,387	36,857	163%	154%